

# 脈々と受け継がれる高い技術力と JFEの精神

川崎製鉄		日本鋼管	
1878年 4月	川崎正蔵が東京築地に川崎築地造船所を創業	1912年 6月	日本鋼管(株)設立
1896年 10月	(株)川崎造船所設立 (のち川崎重工業(株)と改称)	1916年 4月	(株)横浜造船所を設立 (のち(株)浅野造船所に改称)
1950年 8月	川崎重工業(株)の製鉄部門を分離独立し、 川崎製鉄(株)設立	1936年 6月	最初の高炉火入れ(銑鋼一貫体制を確立)
1951年 2月	千葉製鉄所開設 (戦後我が国初の近代的銑鋼一貫製鉄所)	1965年 2月	福山製鉄所を開設
1961年 7月	岡山県倉敷市に水島製鉄所開設	1968年 4月	川崎、鶴見、水江の3製鉄所を統合 (京浜製鉄所発足)

2002



JFE

## JFEグループ発足

鉄鉱石等の原料供給業界および自動車等の鋼材需要業界双方において世界規模の統合・再編が進む中で、世界の主要鉄鋼会社も競争力の維持・強化を図るべく統合や資本提携を実施し、国際競争はますます激化していました。

このような潮流の中で、川崎製鉄と日本鋼管は、互いの強みを融合させ、強固な営業基盤、高度な技術力、最強・最効率の製鉄所・製作所等を活かした最高水準の競争力の実現と、変化に対して挑戦し続ける革新的な企業文化の創造を目指し、経営統合しました。2002年9月には、両社の株式移転により「JFEホールディングス(株)」を設立、2003年4月には、事業分野ごとの特性に応じた最適な業務執行体制の構築を目指して、事業分野ごとの分割再編を実施し、JFEグループとして新たなスタートを切りました。

### CORPORATE VISION

#### 企業理念

JFEグループは、  
常に世界最高の技術をもって  
社会に貢献します。

### CORPORATE VALUES

#### 行動規範

挑戦。柔軟。誠実。

### STANDARDS OF CONDUCT

#### 行動指針

JFEグループの役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図るとともに、サプライチェーンにもこれを促す。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供
2. 社会に開かれた企業
3. 社会との連携と協調
4. グローバル化
5. 地球環境との共存
6. 政治や行政との関係
7. 危機管理の徹底
8. 人権の尊重
9. 働きがいのある職場環境
10. 法令の遵守

# 時代とともに新たな挑戦を続ける JFEグループの足跡

2002  
2021

## 挑戦の歴史

JFEグループ発足後は、統合効果の最大化・早期発現に向けて、東西製鉄所体制の構築や商品ラインアップの拡充、プロセス技術の水平展開、グループ会社の再編・統合を滞りなく遂行しました。以降も、事業環境の変化を踏まえながら、事業ポートフォリオの見直しや世界トップレベルの商品・技術の追求、アジアを中心とした垂直分業モデル・インドJSW社との戦略的アライアンスなどの海外展開等によって企業価値の創出に取り組んできました。

2022

## 創立20周年 次なる挑戦

昨今のJFEグループは、中国の台頭に伴うグローバル競争の激化や、米中対立による世界経済の不透明感や地政学的リスクの拡大、カーボンニュートラル等の地球環境課題対応、革新的なデジタル技術の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大等々、過去に経験したことのない厳しい経営環境に置かれています。これらの変化に適応し、中長期的な企業価値向上を確実に実現することを目指して、2021年度から2024年度までを対象とした第7次中期経営計画を策定し、その達成に向けて諸施策を展開しています。

### 中期経営計画の変遷

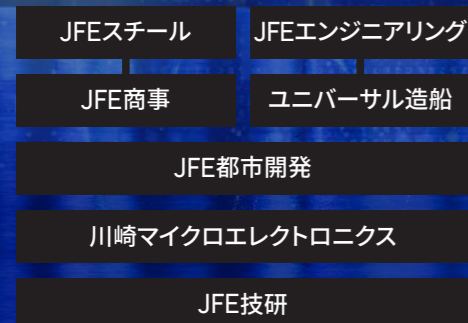
第1次 (2003—2005)	統合効果を最大限に発揮	経営基盤を強化
第2次 (2006—2008)	高付加価値品を拡大	安定生産、高収益体質の確立
第3次 (2009—2011)	将来を見据えた技術開発を推進	高付加価値品のNo.1サプライヤーへ
第4次 (2012—2014)	海外成長領域への展開を拡大	海外現地生産の強化、営業・技術機能の海外展開
第5次 (2015—2017)	国内外の需要を最大限に捕捉	製造・営業体制の強化、新規事業投資
第6次 (2018—2020)	最先端技術により競争力を強化	データサイエンス技術の積極活用

### 事業ポートフォリオの変遷

変遷の詳細については、右記をご参照ください。 <https://www.jfe-holdings.co.jp/company/history/index.html>

〈2003年4月1日〉

事業会社設立



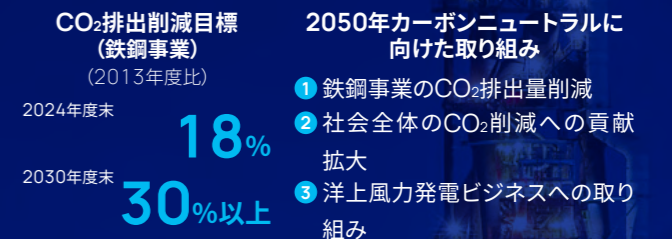
〈2013年1月1日以降〉



### 第7次中期経営計画(2021—2024)の中での挑戦

#### 1 カーボンニュートラルに向けた「JFEグループ環境経営ビジョン2050」の推進

CO<sub>2</sub>を排出することなく、高機能な鉄を大量に生産できるプロセスの開発は、今後の社会の持続的な発展のためには避けて通ることのできない取り組みです。世界の競合他社に先んじて、必要な脱炭素技術を可能な限り早い時期に確立することを目指します。



#### 2 国内鉄鋼事業における量から質への転換～世界トップレベルの収益力の追求

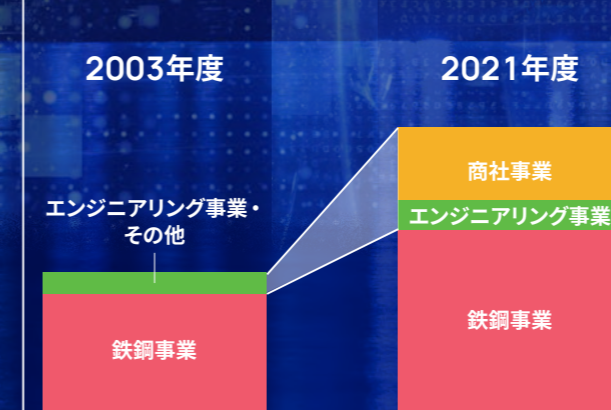
今後、国内市場が縮小し、また、採算性を持った輸出拡大も厳しさを増すと想定され、景気や市況の変動に強い、高い収益力を確保することが重要です。そのため、本計画においては、収益の源泉を「量」の拡大に求めず、「質」に転換し「鋼材トン当たり利益1万円」を追求していきます。



#### 3 成長戦略の推進

- 鉄鋼事業
  - インドJSW社との方向性電磁鋼板製造販売会社の共同設立についての検討
  - ソリューションビジネスの拡大
- エンジニアリング事業
  - 2030年度 売上収益1兆円規模への事業拡大
- 商社事業
  - 高機能電磁鋼板の海外加工サプライチェーンマネジメントの拡充

#### 売上高/売上収益の変遷



#### 4 DX戦略の推進

- 革新的な生産性向上
- 既存ビジネスの革新
- 新規ビジネスの創出

#### 5 効果的な投資実行と財務健全性



2050

## 持続可能な未来の実現へ

JFEグループは、文明社会の基礎素材として欠かせない「鉄」を事業の中核としていますが、それにとどまらず、鉄を起点として生み出され、人々の安全で快適な暮らしを支える「エンジニアリング」事業を持ち、それらの生み出す多様な価値をグローバルな「商社」事業を通じて世界中の隅々にまでお届けすることができる、という強みを持った企業グループです。

長年の事業活動を通じて蓄積した、技術・人材・資金・知的財産・ネットワーク等のリソースを最大限に活用しながら、「環境的・社会的持続性(社会課題解決への貢献)」と「経済的持続性(安定した収益力)」を確立することで、持続的に価値を創出することを目指しています。



環境的・社会的  
持続性



経済的持続性



JFEスチール



JFEエンジニアリング



JFE商事



ジャパン  
マリンユナイテッド

## 社会になくってはならない 存在として

人類は、古くは紀元前1500年頃から、農具、鉄器、建材など、さまざまな用途で「鉄」を利用してきました。現在に至っても、「鉄」は、生産規模の大きさ、高い経済性、低い環境負荷や高い加工性といった他素材に対する圧倒的な優位性を背景に、あらゆる産業の基礎素材として使用され、産業や社会の発展を支えています。今後、アジアを中心とする新興国の経済成長が進み、自動車、建造物・インフラ、商船、容器など様々な需要が伸び続けていきますが、これらを素材として支えることができるのは「鉄」を置いて他にありません。

私たちの使命は、いかなる環境の中でも未来の地球を豊かにするための商品・サービスを開発し、提供し続けることです。今、脱炭素社会の構築に向けた動きは世界中に広がり、その実現に対する貢献を求める社会的ニーズが加速度的に高まっていますが、鉄鋼製造プロセスの脱炭素化をいち早く成し遂げるとともに、CO<sub>2</sub>削減に貢献する高性能・高品質な製品・ソリューションを提供し続けることでこれに応えていきます。

私たちは、社会の持続的発展と人々の安全で快適な生活のために「なくてはならない」存在としての地位を確立し、社会の皆様幅広く認めていただける企業を目指して、今後も挑戦し続けていきます。